

インターネットと私のライフスタイルの関わり マキシ・ケイ（アメリカ）

私の親友がウガンダでボランティアをしながら生活していた頃、彼女がインターネットに安定して接続できるときしか話せなかったので、数ヶ月に一度しか話すことができませんでした。私が最後に両親や兄弟とペンシルベニア州の自宅で過ごしたのは、1年以上も前のことです。私とボーイフレンドは、付き合い始めて2年と9カ月になりますが、そのうち2年と1カ月は遠距離恋愛の状態にあります。インターネットは友達や家族、ボーイフレンドとの関係、そして必然的に私の生活のすべてに大きな影響を与えています。

■友達

友達がどこに住んでいるのかに関わらず、インターネットを通して彼らとつながることができます。先週、フェイスブックのおかげで、日本に留学中に会ったペルー人の友達が新しい仕事を始めたことや、アメリカの高校の同級生が最近婚約したことを知りました。私はほんの数秒のうちに「おめでとう！」と返信しました。もしこれが手紙だったら、数週間かかったことでしょう。インターネットやソーシャルメディアは、コミュニケーションを簡単にそして迅速にするだけではありません。写真や顔文字、ゲームを送り共有することができるという側面は、よりカジュアルな交流を可能にします。単なる文字だけのメールや手紙よりも頻繁な、そして個人のスタイルに合ったコミュニケーションを促進してくれます。私の場合、遠くに住んでいる友達とも近い関係でいられることを可能にしてくれています。

■家族

私の姉の最初の息子であり、私にとって初めての甥っ子になるカレブは、昨年私が日本に滞在している時に生まれました。実家に帰るには15時間以上のフライト、そして1500ドル以上の費用がかかってしまうので、その代わりに、クリスマスなど家族みんなが集まるときには、ビデオチャットをしています。姉はいつも「カレブ、ケイおばさんにごあいさつして」と言いながらコンピュータ画面の前に甥っ子を連れてくるので、私はカレブの笑顔を見ることができます。私が手を振ると、困惑した表情でじっと見返しながらも、私の存在を認識し、私の顔を触ろうと小さな腕を画面に向かって伸ばします。このような時、距離に関わらず、家族と本当の時間を過ごせることに感謝しています。

■大切な人

私とボーイフレンドは沖縄で出会いました。今はお互いの仕事の関係で、彼は東京に、私は福岡に住んでいます。正直に言うと、インターネットがなければ私たちの関係はこんなにも長くは続かなかったと思います。スカイプやフェイスタイム、グーグルハンアウトツを使って、私たちはほとんど毎日会話しています。仕事に出かけているときなど、実際に会話を

していないときでも、コンピュータをオンにしたままにしています。お互いの仕事はどうだったかなどという話をしている時に、例えば私は洗濯物を干していたり、彼は夕食の準備をしたりしています。もちろんインターネットは完全ではありません。接続状況が悪くて彼の声がクリアに聞えない時や、画像が歪んでしまう時にはストレスが溜まります。もちろん、彼と直接一緒に時間を過ごせることのほうが良いのですが、インターネットは、一貫したコミュニケーションを通して関係を持続させながら、お互いの夢やゴールを追い続けるために動き続けることを助けてくれています。

■ 結論

インターネットは、友達や家族、そしてボーイフレンドとのコミュニケーションを簡単にしてくれることで、私の生活をサポートしてくれています。数十年前なら、20代半ばに差ししかかった女性として、恐らくキャリアか家族かという選択をしなければならなかったでしょう。でも私にはあてはまりません。私はキャリアも家族も両方を追い続け、そして成し遂げることができると感じています。専門家として仕事を遂行する能力があるという私の自信や人生の目標は、例えば在宅勤務といったインターネットが与えてくれる機会や柔軟性に由来しています。フォレスター調査によると、アメリカでは2009年には約3,400万人がときおり在宅勤務をしており、2016年には6,300万に達すると予想されています。私の姉もフルタイムで仕事をしていますが、在宅勤務を活用しており、オフィスで働く時間は週に20時間だけです。それ以外の時間は家で仕事をし、そしてカレブの育児をしています。将来、私と夫が家庭内外における責任を平等にバランスよく持てる状況になるだろうと思います。この目的のために、インターネットはジェンダー平等の手段として、女性そして男性の両方をエンパワーしてくれるのです。